

本質に生きる

心臓・腎高血圧内科教授
腎臓内科部長
木村 玄次郎

末期腎不全のため透析療法を受けている患者の予後を国際比較した最近の研究によって、先進国中では我が国が最良であり米国が最悪であるとの結果が明らかにされた。従来から米国の透析患者の予後が不良であることは広く知られていたが、健康な集団は腎移植に移行しているからというのが米国の主張であった。しかし、背景をマッチさせても我が国の透析患者の予後が最高であり、米国は最低であることが明確になった。同様のことは心不全や冠動脈疾患に対する急性期治療という謂わば米国の看板領域でも明らかになりつつある。例えば、米国の心不全患者の予後は、我が国と比較して極めて不良であることは以前から文献的に知られていたが、心筋梗塞を基礎に発症する心不全が多く、心機能低下が著しいためと推測されていた。しかし、最近、我が国でもエビデンスが報告されるようになり、背景を補正しても米国の心不全患者の予後はいかにも不良と考えられるようになってきた。米国の次期大統領を目指すヒラリー・クリントン候補は医療・福祉政策の第一人者として有名であるが、世界の医療保険制度を調査すると日本の制度が最高であり、米国に適用するよう模索中であることが報じられている。

日本人の新生児死亡率の低さや平均寿命の高さは、世界一であり、これらは最も単純明解な医療福祉レベルの指標である。国民は、これらの情報を知っているが、だからといって日本の医療レベルが高く恩恵を受けているとは理解していない。様々な疾患で綿密に国際比較し、日本国民には世界と比較しても最高レベルの医療が供給されていることが明確になればと希望する。このような情報が次々と明らかにされれば、医療界がもっと仕事に誇りを持つことができるのではないか。国民の間でも、医療界に対して少しは感謝の念がでてくることを期待したい。

最近の改革は、何十年も掛けて築き上げられてきた伝統を、短期間で一気に破壊してしまうものが多い。古いものは全て悪で、新しいものは全て善である

かのように、古いものに内在する良い文化なども切り捨ててしまっているのが実情である。グローバルゼーションの名の元に、実際にはアメリカ方式をそのまま持ち込むことが多い。しかし、日米を比較すると基本的に大きな差があることは誰の目にも明らかである。米国では、広大な国土のために人口密度は極めて低く、面積でいうと大半は無医村になる。大陸横断してみると高速道路のインターチェンジには no gas, no hospital, no facility との看板が目につく。広大な国土全体を平均的に整備することは不可能であり、したがって平等や均等配分といった議論は不可能で、常に効率を優先せざるを得ない。グランドキャニオンに行くと、絶壁で一步足を滑らすと助からない場所にすら柵はない。安全は自分で守るのが米国では当たり前の考え方になっている。銃を保持する気持ちも理解できないではない。米国での格差と対比すると我が国は、いかにも均質である。したがって、平等や均等といった議論が成り立つ。米国流に効率を追求することも勿論重要ではあるが、基本的な両国の差を認識した上での配慮が重要と考えられる。国全体のポテンシャルを高めるのに、均等を優先すべきなのか、効率を優先すべきなのか、その中間的な新しい発想を求めるのか、今日本は岐路に立たされていると思われる。恐らく個々の問題に応じて取り組み方を変える必要があると考えられる。米国のスタンダードが、そのまま日本のスタンダードになり得ないことだけは確かである。また、米国が世界のリーダーたる資格を失いつつあることも明白である。小泉流の改革に限界があり、安倍政権が短命に終わった理由は、この辺りにありそうである。

もうひとつの世間の流行に“自分流を求めてのキャリアアップ”としての転職がある。会社に就職しても終身雇用制を嫌い、自己実現を求めて次々と転職する若者やフリーターが多くなっている。医局に属さないで自分流にマッチングで次の職場を決定しようとの青年医師が増加しているのと傾向は同じである。卒後臨床研修義務化の制度とこの若者の考え方が一致し、専門領域の決定を先送りし、いわば学生生活を延長させ、自分流を求め続けキャリアアップを幻想していると理解される。私が最も恐れるのは、「楽をして儲ける」ことがスマートで賢明な生き方との風潮である。ヘッジファンドなどが巨額の資金を動かし、弱者を支配する姿を見ると、何かゲーム感覚で巨大な利益を奪い取っているように見える。元来、米国は安くて品質の良い商品を外国の労働で作らせ、その借金は為替レートを変動させることによって労なく帳消しにすることを繰り返して来ている。自分たちは出来るだけ汗をかくことなく楽をするシステムを構

築し、これを世界に強制している。私は、為替レートを固定制などにして、本当の仕事が利益に反映される仕組みが必要ではないかと痛感している。それにしても、努力や忍耐が正当に評価され報われる社会を形成して行くことこそ、今後の日本そして世界の健全な発展にとって重要な課題と考える。努力や忍耐が逆に疎んじられ、楽して儲けることが尊敬される時代では、今後の健全な社会が展望できなくなる。自分の本分を放り出し、如何に情報を握り、楽して利益を獲得するかに国全体が終始し始めているような気がしてならない。医師、とりわけ内科医、の不足/偏在は、これらの様々な社会問題を浮き彫りにした、1つの結果と考えられる。

日本の社会やシステムは、米国に比べると一見短期的効率は劣るように思われるが、長い目で見ると逆に成熟した機能的な側面も多い。今後は、日本独自の良いシステムを活かしつつ、如何に効率を高め日本方式を時代の要求に応じて進化させ得るかが求められている。我々個人としても流行や外観にとらわれることなく、本質を見極め、自分に自信を持ち、夢を追い、周囲と協調し自分を高め続けることができるかが問われる。国の財産はヒトであり、人財を育成することは大学の最大の使命である。名市大から将来の日本の医療界を背負い社会に貢献できる人材が輩出することを願う。